

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400142		
法人名	社会福祉法人 十字会		
事業所名	十字園第二グループホーム		
所在地	岡山県真庭市下河内2275-2		
自己評価作成日	令和 5年 11月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 5年 11月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の下で、四季折々の草木を時下を感じながら園外を散歩しつつ、植物や花の鑑賞をしたり、摘み取っては花瓶に生けたりと自由に楽しんでいます。春にはお花見や野菜の植え付けやわらび摘み、夏は七夕行事、野菜の収穫、秋には芋ほりや栗拾いを楽しみ芋ご飯や、栗ご飯と四季の味覚を感じています。草むしりは出来る方が少なくなっていますがお天気と相談しながら出来る時に行っています。今まで家庭で行っていた家事もそうですが屋外の活動も皆さん生き生きとされた表情で頑張られています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな立地を生かした外気浴や畑作業等、暮らしの中で四季を感じられる活動が充実しています。入居者との関わりでは、会話だけに頼らず、生活歴や行動からも本人の思いを汲み取るように取り組んでいる様子が窺えます。また、慌ただしい空気感が入居者に伝わらない様に、忙しい時こそ自身の所作に気を付け、笑顔で接することを心掛けている職員がいる等、入居者が居心地良く過ごせる事を大切に関わっている様子が見受けられます。緊急時に備えて、防災設備の確認や机上訓練等、毎月テーマを決めた取り組みを実践しており、災害対策に高い意識で取り組んでいる様子が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関掲示板、両フロア内、面会室に掲示し、常に理念の意識付けを行い、実践に繋がるよう心掛けている。	理念をホーム内に複数掲示する事で、職員の意識付けを図っています。理念の一つ、笑顔を忘れず入居者と向きあう点は、外部評価当日の職員と入居者との実際の関わりからも見受けられました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この3年間、コロナ禍により自由に交流することが困難でした。今後は徐々に買い物に行ったり、運営推進会議を通じ地域の方との交流を図っていく予定です。	コロナ禍において活動に制限がある中でも、民生児童委員と共にホーム建物前の花壇の手入れをしたり、ボランティアの受け入れを徐々に再開する等、できる事から地域との交流に取り組んでいる様子が窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトとして、地域のイベントに参加し認知症の理解を深めている。また、真庭市グループホーム連絡協議会に参加し、情報交換や研修参加に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況の活動報告や利用者の状況説明等を報告したり、各種の行事に参加していただいている。また、会議の中でご意見をいただき、サービス向上に活かしている。	運営推進会議が事業計画や活動状況の報告に加えて、市の担当者や地域との情報交換の場となっています。参加する地域関係者にホームの行事への協力を呼び掛ける等、会議の機会をサービス向上に活かす取り組みが見受けられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や真庭市グループホーム連絡協議会の場に高齢者支援課の職員に参加していただき、アドバイスや情報提供を得ている。	主に各種会議を通じて、市の担当者と連携を図っています。市が推進する認知症サポーター養成講座を複数の職員が修了し、認知症キャラバンメイトとして地域の活動に参加する等、協力関係を築いている様子が窺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回開催される法人の「虐待・身体拘束防止委員会」の委員として参加して虐待、身体拘束防止に取り組んでいる。また、事業所内でもOJTを活用し身体拘束をしないケアに努めている。	委員会は不適切なケアの見直しに力を入れて取り組んでいます。直近では「落ち着かない仕草の理由を、言葉で訴えない入居者の思いを真剣に探る」をテーマに向き合う等、身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・身体拘束防止委員会や事業所内でも防止について話合っている。研修としては真庭市に依頼しての勉強会やzoom等での研修会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者、家族や親族が金銭管理を行っている入居者がおられます。関係者と相談しながら支援させていただいている。成年後見制度は法人の勉強会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約と細かい説明はもちろん、介護保険改定時にはその都度、同意書をもって説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族から日常会話の中で気軽に意見が聞かれるように配慮している。また言い難いことに関しては意見箱の活用や高齢者支援課等に気軽に相談できるよう説明もしている。	家族の面会時、様子の報告だけでなく世間話も交える等、意見や要望を言いやすい関係作りを大切にしています。家族から「母は草取りや野菜作りが好きだったから、させてあげて欲しい」と要望があり、実際にホームでの生活に反映している事例が見受けられました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な管理者会議や副主任以上会議の場での情報共有、また年に2回の人事考課、自己申告で全職員と面接し意見や提案を聞くようにしている。	年2回、人事考課や自己申告書を用いた面談を行っており、職員の働き方や運営に関する意見提案を聞く機会を設けています。主に施設環境の見直しを行う労働安全委員会があり、手すりの追加等、職員の意見を運営に反映させています。	今後も職員の意見や提案を聞く機会を大切にし、個々の能力を發揮しながら働きがいの感じられる職場環境を目指した運営に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の労働安全衛生委員会に各事業所から出席し職場の環境や労働条件の整備に努めている。また、人事制度構築委員会でも個々職員の意見を共用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の各研修委員が年6回程度の各研修会に参加し事業所内に持ち帰りOJTを行っている。管理者は年2回、経営に関する研修会を外部講師を招いて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加して意見交換や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期においては当然ながら不安感が強いと思われるので職員も管理者も時間を取り傾聴、会話をしっかり持つことで不安軽減と信頼関係を深めることに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族が困っている事や不安な事を聞かせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談し、本人に必要な支援方法を考え、出来るだけ本人の環境を変えないような支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来る事(掃除、洗濯干しや洗濯物たたみ、調理、買い物)を尊重し日常生活を一緒に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対して本人の思いがあれば出来る限りその時に電話で話をさせていただいている。日常の様子は面会時に伝え、また近況の写真を見ていただいたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段面会に来て下さっている家族には以前の友人や親戚の方など気軽に面会して下さるよう声掛けしている。	入居前に生活していた同敷地内のケアハウスの友人が訪ねてくる交流があります。手紙や年賀状の作成を職員がサポートしている他にも、本人が望んだ時に電話の取り次ぎを行う等、馴染みの関係が途切れない支援に努めている様子が窺えます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの様子や性格を把握し、入居者同士の関係を仲介したり、交流しやすい環境に配慮しながら支援させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や他施設への入所になっても気軽に相談していただけるよう契約時、及び入院、退去時にお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の思いや意向が聞けるように努めている。聞き取ることが難しい方には思いを本人本位に検討している。	日々入居者の言葉に耳を傾け、思いや意向の把握に努めています。その他にも、入居時に家族が記入する「人生履歴情報シート」の様々な情報をもとに、本人を理解して関わろうと取り組んでる様子が窺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族に「人生履歴情報シート」の記入協力をお願いし、本人の人生履歴を基に柔軟に対応させていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が好きな事や趣味、今出来ることを把握し、自信が持てる生活が送れるよう状態変化に注意しながら、随時探り出している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化が見られた場合は職員間で生活目標を見直す話し合いの場を設けている。家族とは面会時に相談しながら希望を聞き介護計画に反映するようにしている。	職員の気づきを記録するシートを活用しており、介護計画を作成する際は、その気づきや意見を反映させるように取り組んでいます。家族には、主に面会時に意見や要望を聞くように努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に毎日細かく記入し、職員間で情報を共有しながら、個別の対応ができるよう入居者のニーズに合ったケアサービスを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化をふまえながら、家族、本人が納得した上で、日々柔軟に対応できるサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	具体的にはないが慰問がある時にはそちらに出かけたり、可能な方は買い物に誘ったり、運営推進委員の方を施設に招いて交流を図ったりしながら楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人が納得された上でかかりつけ医をお願いしている。体調不良時には訪問看護師、医師と連携を取りながら必要に応じた医療機関で受診していただいている。	河本医院がかかりつけ医となっています。体調不良時、訪問看護の緊急時訪問が受けられる事が入居者並びに家族の安心に繋がっています。他科受診時は、バイタル表や体重推移の記録を資料として準備しており、適切な医療が受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の際に個々の一週間の様子を伝えている。体調に異常がみられた時には24時間いつでも相談に乗っていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には各病院によって異なるが、窓口となる看護師、ソーシャルワーカー、相談員との連携が図れており情報交換、相談が行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に継続的な医療管理が必要な方は、当事業所で出来る事と家族にご協力いただけることを説明し納得いただいている。また、重度化された場合などの対応等も説明し了解をいただいている。	ホームの方針として、看取りの支援は行っていません。管理者は契約時、本人や家族にホームで対応し得る最大限のケアについて説明しています。生活が難しくなってきた場合、状況に応じて医師も交えながら、今後の対応について話し合いを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対策委員会を中心に法人で実施されている委員会に参加し、事業所内でもOJTを行っている。個人ファイルには「緊急時メモ」を作成し、急変時や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内でも月1回の自主防災を行っている。法人としては年2回の総合防災訓練を実施し、災害対策に備えている。	避難訓練は年2回、火災以外にも地震や土砂災害等、自然災害を想定した訓練も実施しています。訓練には消防団の協力があり、入居者の避難誘導を一緒に行う等、地域と協力体制を築いている様子が窺えます。	想定を超える災害が発生した場合にも、職員が落ち着いて必要な連絡や入居者の避難誘導が行える様に、現在の高い防災意識での災害対策が継続される事に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の誇りやプライバシーを損ねないよう穏やかに過ごしていただけるよう、排泄時(失禁時)、入浴時など特に自尊心を傷つけないような声掛け、対応に気を付けている。	排泄介助の声かけは、周囲に聞こえないように、声の大きさや話しかける位置に留意して関わっています。同性介助に対する意向を事前に確認し、本人の気持ちに沿って介助するように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みの洋服や趣味活動など本人の希望を最優先し自己決定ができる支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日課は大まかには決めているが、その都度個人の意思を尊重し、その日の気分や体調に合わせた入居者本位の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は地元の理髪店に来園していただき行っている。また、家族の協力のもと化粧なども自由にいただいている。季節に合った服、お気に入りの衣類も持参していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて簡単な野菜の皮むきなどの下準備から野菜の刻みなど毎日一緒に手伝ってもらえている。また、畑で取れた野菜を使ったりしながら季節感を持った食事を楽しめるよう支援している。	管理栄養士の献立に基づいて、職員が手作りの料理を提供しています。決まった献立以外にも、ホームの畑で採れた野菜を使っておかずを一品加えたり、おやつを作る等、柔軟な取り組みで食事を楽しむ支援に努めている様子が見受けられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立に沿って調理している。水分量も確保できるようお茶のほかスポーツドリンク、フルーツジュース、コーヒー、ココアなど飲み易い物も提供させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日課として毎食後、全員の方に口腔ケアを行ってもらっている。義歯の方には定期的に洗浄剤に浸けて清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンや習慣を把握して自立に向けて支援している。出来るだけトイレでの排泄が継続でき、また、紙パンツやパットが最小限で収まるように支援している。	チェックシートを活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めています。入居者の仕草もよく観察し、タイミングを見計らいながら声かけや介助に取り組みしており、排泄の自立に向けた支援を行っている様子が窺えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔を把握している。水分摂取や身体を動かすことで便秘を予防している。便秘の方は主治医に相談するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否があれば拒否の原因を考える。声掛けの仕方やタイミング等々。入浴は同じ職員が準備から整容まで対応している。	冬至に柚子風呂を行う等、入浴を楽しめるように取り組んでいます。入浴を拒否する入居者には、時間を空けて再度声かけを行う等、本人の意向やタイミングを大切に支援に努めている様子が見受けられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は個々に違うので習慣やその時の状況に応じて対応している。夜に寝つきが悪い方には午睡時間を短かめにしたり、日中集中できることを設定するなど対応を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬内容を把握し服用支援している。また、確実に服薬できたかを確認している。臨時の服薬についてはその経過を看護師を通じ医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	経験を生かし、食事作りや片付け、掃除や洗濯干しやたたみ等を行ってもらい「役に立っている」と感じるような支援を行っている。また、農作業の好きな方は畑と一緒に作業し、達成感を味わっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所周辺の散歩や敷地内の他事業所への訪問は行っている。家族との日帰りの外出は行っているが感染対策のため外泊は控えていただいている。買い物は1人ずつ行っている。	ホーム敷地内での畑作業や、散歩を兼ねた外気浴を少人数ずつ、ほぼ毎日実施しています。大がかりな外出頻度は少なくとも、自然豊かな敷地内を散歩するだけで、気分転換が図れたり、四季が感じ取れる環境となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで不安になったりトラブルの原因になる恐れがあるので小銭程度の所持にさせていただいている。お金の使用は現在行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話がしたい方にはこちらから電話をかけたりしながら会話を楽しんでもらっている。携帯電話をお持ちの方には特に制限なく使用してもらっている。また、ハガキのやり取りをされている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設周辺の花や草木を自由に摘み帰り生けてもらったり、入居者の作品等を絶やさないように飾り、会話が自然に生まれるような環境を作っている。	温湿度計を用いて、快適な環境となる様に空調機器等の調整を行っています。職員は忙しい時こそ、笑顔で慌たじさを感じさせない振る舞いを心掛けており、居心地良く過ごせる配慮が見受けられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見る方、本読みをされる方、塗り絵をされる方、パズルをされる方、話をされる方等々、集団レクや、催し物以外は自由に楽しまれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れたタンスや椅子、鏡台。また、家族の写真や位牌等、自分の居場所として心地よく過ごしていただけるようにしている。	使い慣れた家具や生活用品を持ち込み、その人らしい空間となっています。排泄用具はクローゼット内に収納しており、プライバシー面への配慮と共に、本人が居心地良く過ごせる工夫が見受けられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、洗面所、トイレ、ふろ場等の場所が分かりやすいように大きな字で表示し、できるだけ一人で移動でき我が家のような感覚で生活していただいている。また、廊下等共有スペースには障害物を無くし、安全に移動できるようにしている。		